

平成29年度実績に係る 部局評価書

部局名: 連合小児発達学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 (子どもみんなプロジェクト)では10大学16連携教育委員会に拡大し、学校風土、いじめ等、子どものこころの発達に関連する予備調査を10,000人を超える規模で行ったことが評価できる。 また、大脳疾患に対する高度な専門医療を実践するとともに、新薬の開発を含めた臨床研究を目的として、さらに新しい寄附講座「行動神経学・神経精神医学」を設立したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。 西宮市が受託研究機関として加わり、平成30年度からは堺市で自閉症児における超早期療育が開始する(事業費増額見込み)など、自治体との協働体制が強化されたこと、GazeFinderについて池田市、西宮市をはじめ、3府県7自治体で社会実装を行ったこと、「子どものこころと脳発達学」に関して、教育現場と連携した企画を多数行ったことが評価できる。 また、革新的イノベーション創出プログラム(COI stream)で開発中である、双方向性型睡眠教育アプリは学内トライアルを終了し、その有効性についてプレスリリースを行い、NHKや読売新聞等にて大きく取り上げられており、優れた成果が認められる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。 学内でもトップクラスの女性教員比率が維持されており、新しく設置した寄附講座でも常勤教員4名中女性を3名採択していることが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 連合5大学での共同研究成果を広く社会に公開することで、共同研究の受入件数の増加に繋げていることが評価できる。 また、連合5大学間で培われた教員間のつながりを生かし、初のクロス・アポイントメント協定を締結したことが評価できる。</p>
